

宮城県沿岸で天然アコヤガイを初めて確認

県は宮城県沿岸で天然アコヤガイの生息を初めて確認しましたので、お知らせいたします。

記

1 これまでの経過

- ・令和6年10月下旬、石巻市竹浜^{たけのはま}の養殖カキにアコヤガイに似た二枚貝が付着しているのを漁業者が発見し、宮城県水産技術総合センター（石巻市）に持ち込まれた。
- ・形態がアコヤガイに類似していたことや、殻の内側に真珠層が見られたことから、（一社）日本真珠振興会にDNAによる同定を依頼したところ、アコヤガイであると12月17日に判明した。

2 確認の意義

- ・今回のアコヤガイの確認は、近年の海水温上昇等により、海洋生物の生息範囲が変化していることを示しており、我が県にとっては、新たな養殖品目としての可能性を示唆するものと考えられる。

3 対応状況

- ・県漁業協同組合を通して漁業者に情報提供を依頼したところ、同様の貝37個体が水産技術総合センターに届けられ、12月20日現在で26個体の飼育を行っている。
- ・県は水産技術総合センターにおいて、アコヤガイの水温耐性等を調べるなど、本県沿岸域での養殖の可能性を検討していく。

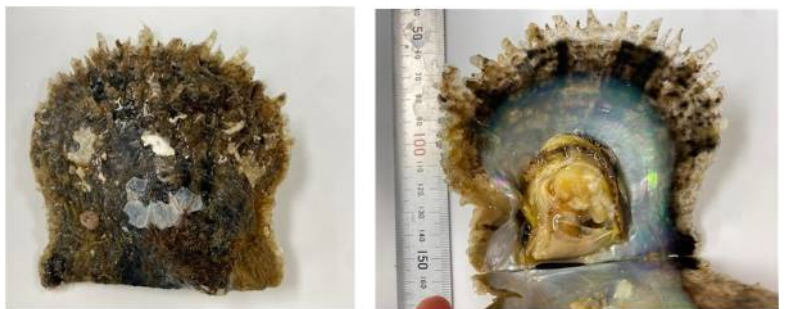


図 アコヤガイが最初に発見された場所

出典：電子地形図（国土地理院）

写真 アコヤガイと判明した二枚貝

（殻高10cm程度）